

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者 各位

昼夜間人口比率は90.4 市外への通勤・通学者数は73万人に ～平成17年国勢調査「従業地・通学地集計結果」(横浜市分)より～

<http://www.city.yokohama.jp/me/stat/index.html>

上記 URL (横浜市統計ポータルサイト) にて平成 19 年 5 月 8 日より報告書を掲載します



通勤・通学人口 (横浜市を常住地とする従業者・通学者)

通勤・通学人口が増加

通勤・通学者数

1,813,709人

横浜市に常住する 15 歳以上の通勤・通学人口は 1,813,709 人で、前回の平成 12 年に比べ、17,758 人 (1.0%) 増加しています。15 歳以上の通勤者は 1,620,000 人で、平成 12 年と比べて 43,107 人増加していますが、15 歳以上の通学者は 193,709 人で 25,349 人減少しています。従業地・通学地をみると、市内が 1,084,680 人と従業者・通学者数の 56.2% を占め、市外が 729,029 人と 37.8% を占めています。

(P1、2 参照)

青葉区で 市外通勤者・通学者が多い

市外通勤者・通学者割合

青葉区 55.6%

行政区別に従業地・通学地割合をみると、自宅従業者の割合は中区が 8.3% と最も高く、次いで西区の 7.6%、南区の 7.2% と続いており、自営業主の比率が高い中心区で高くなっています。市外への割合は、青葉区が 55.6% と際立って高く、以下、港北区が 46.1%、鶴見区が 45.5% となっています。そのうち、東京都への割合が、青葉区で 43.3%、港北区で 35.4% となっており、大部分を占めています。

(P3 参照)

男性で市外通勤者の割合が高い

男性市外通勤者の割合

44.6%

男女別に従業者の従業地別割合をみると、男性は市内が 55.4%、市外が 44.6% で、女性は市内が 73.4%、市外が 26.6% となっており、男性は女性に比べて市外への通勤者の割合が高くなっています。

(P4 参照)

流出・流入人口

市外への流出が増加傾向

流出超過数

335,908人

横浜市の流出人口は 729,029 人、流入人口は 393,121 人で、流出超過数は 335,908 人、流出超過率 (横浜市に常住する従業者・通学者総数に対する流出超過人口の比率) は 17.4% となっています。平成 12 年と比べ、流出超過数は 15,952 人増加し、流出超過率は 0.7 ポイント上昇しています。

(P8、9 参照)

東京都への流出が多い

東京都への流出割合

65.9%
(うち特別区部61.2%)

横浜市からの流出口は、他県への流出が 502,704 人、県内への流出が 226,325 人で、それぞれ流出口の 69.0%、31.0% を占めています。他県への流出の内訳をみると、東京都が 480,074 人(流出口の 65.9%) と最も多く、うち特別区部が 446,497 人(同 61.2%) と、そのほとんどを占めています。

(P10 参照)

県内からの流入が多い

県内からの流入割合

70.6%

横浜市を従業地・通学地として、他の市区町村から流入する通勤・通学者数(流入人口)は 393,121 人で、平成 12 年と比べ 7,580 人、1.9% 減少しています。横浜市への流入人口は、県内からの流入が 277,639 人、他県からの流入が 115,482 人で、流入人口のそれぞれ 70.6%、29.4% を占めています。

(P11 参照)

昼夜間人口

昼夜間人口比率は横ばい

横浜市の昼夜間人口比率

90.4

平成 17 年における横浜市の昼間人口は 3,205,144 人で、12 年に比べ 113,978 人(3.7%) 増加しました。一方、夜間人口(常住人口)は 3,545,447 人で、12 年に比べ 130,587 人(3.8%) 増加しています。この結果、昼夜間人口比率(夜間人口 100 人当たりの昼間人口)は 90.4 となっており、平成 12 年の 90.5 から横ばいに推移しています。

(P13 参照)

西区、中区で昼夜間人口比率が高い

西区、中区の昼夜間人口比率

西区 198.8
中区 182.9

昼夜間人口比率を行政区別にみると、西区が 198.8 で、全国の市区町村の中で第 11 位(神奈川県内で 1 位)と高くなっており、中区が 182.9 と、同 19 位(同 2 位)となっています。一方、昼夜間人口比率が低い区をみると、栄区及び泉区が 73.5 と最も低く、次いで青葉区の 75.1、港南区の 75.8、旭区の 75.9 となっており、西区、中区以外は 100 を下回っています。

(P14 参照)

大阪市、東京都区部で昼夜間人口比率が高い

昼夜間人口比率

大阪市 138.0
東京都区部 135.1

昼夜間人口比率を 15 大都市別にみると、大阪市が 138.0、東京都区部が 135.1 と高くなっています。横浜市の 90.4 は 15 大都市中 2 番目に低く、最も低いのは川崎市の 87.1 となっています。

(P15 参照)